

第 111 回日商簿記 2 級 第 1 問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	売 掛 金
建 物	備 品	未 収 入 金	備品減価償却累計額
前 受 金	修 繕 費	貯 蔵 品	売 上 原 価
支 払 手 形	買 掛 金	修 繕 引 当 金	修 繕 引 当 金 戻 入
未 払 金	売買目的有価証券	有 価 証 券 売 却 損	有 価 証 券 売 却 益
有 価 証 券 評 価 益	固 定 資 産 除 却 損	売 上	繰 越 利 益 剰 余 金
減 価 償 却 費	広 告 宣 伝 費		

1. 前期に @ ¥ 900 で購入し、前期末決算で @ ¥ 1,200 に評価替え（切り放し法採用）した売買目的有価証券のうち、3,000 株を、@ ¥ 1,500 で売却し、売買手数料 ¥ 10,000 を控除した残額は現金で受け取った。売買手数料は、有価証券売却益または売却損に加減して処理すること。
2. 決算に当たって、取引銀行から受け取った当座預金残高証明書の残高と、当社の当座預金勘定の残高とを確認したところ、以下の項目のため残高が一致していないことが判明した。1 つは、決算日に当座預金口座に振り込まれた得意先の売掛金 ¥ 200,000 について当社では未処理であったことと、2 つは、広告宣伝費の支払のために振り出したものとして処理していた小切手 ¥ 100,000 が、先方に未渡しとなっており金庫に保管されていたことである。
3. 平成 16 年の期首（4 月 1 日）に購入したコンピュータを当期末（平成 20 年 3 月 31 日）に除却し、処分時まで一時倉庫に保管することとした。なお、このコンピュータのスクラップとしての価値は ¥ 20,000 であると見積もられる。当該資産の当期首（平成 19 年 4 月 1 日）の簿価は ¥ 70,000 であり、当該資産は定額法（耐用年数 9 年、残存価額は取得原価の 10%）によって償却され、直接法で記載されている。当期分の減価償却費の計上もあわせて行うこと。
4. かねてより売買契約を締結していた商品 ¥ 1,000,000 を得意先に引き渡し、代金のうち ¥ 600,000 については他店振り出し・同得意先受け取りの約束手形を裏書譲渡され、¥ 300,000 については、当店振り出しの小切手を受け取った。なお、同商品の販売に関しては、すでに契約時に ¥ 100,000 の現金を受け取っている。
5. 前期に台風により損壊した工場の屋根を ¥ 500,000 で修理し、修理に要した費用は全額小切手を振り出して支払った。なお、当該修理に関しては、前期末において ¥ 400,000 を費用に見積もり計上している。